

会 議 録

会議の名称	令和4年度 第1回和泉市総合教育会議
開催日時	令和4年7月21日(木) 午後3時から午後4時15分まで
開催場所	市役所3階 庁議室
出席者	<p>[構成員] 辻市長、小川教育長、藤原教育長職務代理者、深堀教育委員、西家教育委員、久米教育委員、中西教育委員</p> <p>[事務局] (教育委員会) 並木教育次長兼教育・こども部長、辻生涯学習部長、上田教育指導監、佐々木学校園管理室長、阪下学校教育室長、鍛冶教育・子ども部次長兼教育総務課長、隅埜教育センター所長、西村教育指導担当課長、小路教育総務課企画係長、川崎教育総務課主事 (市長部局) 東政策企画室長、藤井政策企画室企画経営担当課長、高垣政策企画室総括主幹、江口政策企画室主事</p>
会議の議題	<p>(1)学力向上に向けた取り組みについて</p> <p>(2)本市における生徒指導上の課題の対応について (非公開)</p>
会議の要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けた取り組みについて意見交換を行った。 ・本市における生徒指導上の課題の対応について、意見交換を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他 ()
その他の必要事項	

1. 辻市長から、開会の挨拶

2. 事務局説明（資料1）

○和泉市学力向上検討懇話会の経過報告について、事務局（学校教育室）から説明。

3. 小川教育長から和泉市学力向上検討懇話会の状況補足

【小川教育長】

○懇話会の委員の皆様は非常に多忙な方々であり、特に樋渡様、小宮山様に関してはお住まいが関西ではないにもかかわらず、和泉市のために時間を割いていただき、感謝している。

○樋渡様は、佐賀県武雄市長として教育委員会と関わってきた経験や民間での経験を踏まえ、民間ではできない行政の良さを活かし、他市の好事例をスピード感をもって取り入れることなど、実践に基づいた助言をいただいている。

○小宮山様はICTの先駆者でいらっしゃるうえ、ご多忙のなか実際に和泉市の学校を5校訪問いただき、和泉市の実情を把握していただいたうえで助言をいただいている。

○藤原職務代理は、長く和泉市政にご助力いただいていることもあり、必要な施策について実情を踏まえた深い議論ができるよう、市の実態や地域の特色に基づいたご意見をいただいている。

○中西教育委員は、大阪府の教育長の経験を踏まえ、教育行政における府の特色と和泉市の特色とが重なる部分に関する意見など、広域的及び地域的双方の観点から貴重なご意見をいただいている。

○森吉副市長からは、市長部局との連携や、施策を実行するにあたってのポイントをお示しいただいている。

○このような会議は、一般的には総論に終始した議論になりがちであるが、この懇話会では具体的かつ要点をついた意見をいただいております、非常に中身の濃い会議となっている。

4. 意見交換

【辻市長】

○非常に有意義な議論をいただいていることに感謝申し上げます。

○学力向上に関しては、子どもたちへの直接的なアプローチと子どもたちを取り巻く環境の改善という2つの視点が重要であると感じており、いずみ希望塾の創設を総合教育会議で検討した際にも、学力と家庭の経済的背景の関係を視点を制度の導入を整理した。

○市では令和4年度から「子ども家庭総合支援拠点」を設置した。これは子どもに関する様々な相談に対応する総合窓口を確保することで、関係機関との連携を図り必要な支援を行うものである。教育委員会事務局や学校現場では、先生やスクールカウンセラーに、市に総合窓口があることを共有し、学校・市が一体となって取り組めるように周知いただきたい。

○今の子どもたちを取り巻く環境は我々が育った環境から大きく変化し、スマートフォンが当たり前で、これからは VR、メタバースといった WEB3.0 の時代になるといわれており、デジタル教材の活用を検討することは、私としても賛同するところである。

【藤原職務代理】

○いずみ希望塾について、定員が 420 名から倍増する計画が出されているが、定員が増加すると必然的に習熟度の差も広がる。習熟度別の教育を適切に行うことができる事業者を選定し、適切な指導を行ってもらえるよう、事業者と十分な協議を行っていただきたい。子どもたちの習熟度に合わせた指導を行うことは難しいと思うが、ぜひ実現していただきたい。

○リーディングスキルテストについて、今年度は中学 1 年生に導入しているが、ぜひ全学年に導入いただきたい。

○和泉市の教育大綱では、「確かな学力」、「豊かな心」、「健康・体力」を備えた子どもを育むことを目的としており、和泉市の教育の目指すところである。そのうち 1 つ目の「確かな学力」の向上については、現在懇話会で議論を行っており、実現に向けて進んでいくものと考えている。

○2 つ目の「豊かな心」について、昨今の社会情勢に鑑みるに、人に対する思いやりが欠けていると感じる。虐待やいじめがなくなるように、子どもたちへの情操教育が必要である。先生方は大変だと思うが、和泉市教育の前進のために、今のうちに情操教育もしっかり指導してほしい。

【深堀教育委員】

○事務局から懇話会の説明を受けたが、有益な議論がされているようで、これを活かしていけば飛躍的な変革につながるのではないかと期待する。特に、個々の子どもがつまづいている箇所を教員が全て把握することは時間的な課題があるが、AI 教材を使えば簡単に行えるため、積極的に活用いただきたい。ただし、教科によって向き不向きがあると思われるため、どのように活用するのが最も効率がよいのかを研究いただきたい。

○私を含め、保護者は AI 教材を使った学習をしたことがないため、タブレットで勉強し、休憩に例えば Youtube を見るとずっと画面を見ていることになり、健康面が心配だという声も出てくるとされる。タブレットの使い方であるとか、目の健康への配慮など、丁寧な説明・アドバイスをお願いしたい。

○校務支援システムについては非常によい話だと思うが、子どもの個人情報などを入力するのであればセキュリティ面での心配がでてくるとされるため、導入の際にはその対策等を保護者にしっかり説明いただきたい。

【西家教育委員】

○取組の方向性は同感するものであり、AI は避けて通れないが、あくまでもツールであることを認識する必要がある。

○勉強の目的は、テストで高得点を得たり大学に入学するためではなく、生活をするためであり、これが教育

の最終的な目標といえる。人間は一人では生活することができないので、人間関係や情操を子どもたちが習得できて初めて、この教育をやっているよかったですと評価できる。

- A I がどこまでできるのか現時点ではわからないが、A I 教材を提供する事業者がどのように工夫するか、不安でもあり、期待できるところでもある。A I の導入により、学力の状況に応じて、勉強が得意な子どもの学力をさらに伸ばし、平均的な子どもの理解度を増し、勉強が得意でない子どもを少しでも平均に近づけるような教育・指導がやりやすくなると思う。ただ、ツールであるということは忘れないようにすべき。
- 今の子どもは「何を求められているのかを読み解く力」、「国語力」が弱い傾向にあると思う。A I 教材による学習を行う場合でも、「求められていること」を読み取ることが難しい子どもに対しては、A I を外して、人の手によってサポートしていくことが必要だと考える。
- 国語力の醸成には「文字を読む」ことが一番大切で、活字で読む方がよい時期もあると思う。英語の和訳・英訳が受験にも多いことをはじめ、国語力がなければ、大人になって外国へ行っても相手にされない。まず、自国の文化・国語力を身に付けておかないと英語や外国の文化にも興味が出てこないと思う。

【久米教育委員】

- 6月に小学校の道徳公開授業を見学した。高学年ではクラス全体で討論会を行い、児童2名が司会進行をし意見を求めるという形で進めていた。ある小学校では、人が意見している間は聞き、発言が終わってから自分が意見している印象であったが、別の小学校では、人の発言が終わらないうちから、複数の子どもが次の発言をしていたことが印象的だった。人の意見を聞いていないわけではなく、聖徳太子のように、人の意見を聞きながら自分の意見を言い、考え、また次の意見を言うといった、同時に情報の選択・収集ができていて、子どもたちの能力の高さを目の当たりにした。今の子どもたちは、聞く・話す・考えるということを瞬時にできているのだと感心した。
- 目まぐるしい情報社会の中で、複合的な動作が今の子どもたちには求められている。例えば授業でも、先生の説明を聞きながらタブレット端末を操作して、自分でまとめたものを送る、ということが既に行われていると思う。子どもたちから学ぶことはたくさんある。
- そのような子どもたちの発言の中から、ハッと気づかされること、非常に奥の深いことを学ぶことが多いと校長も仰っており、子どもたちからの学びを、現場を通してどんどん取り入れていっていただきたい。
- 心を育てることが読解力の向上につながる。そういった部分のシステム構築をお願いしたい。
- 経済格差とICT環境の関係性も重要と考えており、子どもだけでなく保護者も含めて教育環境を確保するための人的支援や福祉、地域のサポートも必要だと思う。
- 校務支援システムについては、保護者と学校が直接つながることで大きく変化できる可能性があると感じた。例えば、各種お知らせの配布にしても、子どもを媒介するのではなく直接やりとりができることは意義が大きい。ICTを活用して、学校、子ども、保護者の三者がつながっていくことで、家庭の支援につながっていくことを期待する。

【中西教育委員】

- 子どもから学ぶことが多いということ、ICTによって学校と子どもと保護者とが繋がっていくのは大切だということは非常に賛同するところである。
- 本日の事務局からの報告もきれいにまとまっていると感じるが、一番大切なのは、これからこの案をどう具体化していくかである。例えば、懇話会での内容について、他市の事例で効果のあったものは参考にするのが望ましいという説明があった。他市事例を具体的にリスト化し、分析をしたうえで、よいものはどんどん導入していくことが必要だと感じる。
- AI教材の活用については、校内でも学習支援をされるということで、ぜひ行ってほしいと思う。市長の話にもあったが、子どもへの直接的なアプローチと、環境の改善という2つのものの接点となるものが、子ども食堂であったり、学童保育であったりと、厳しい家庭状況の子どもが集まる場での取組だと思う。そのような場でも、AIを楽しめるような、具体的な取組が必要ではないかと思う。
- 教育委員会と市長部局の連携、特に福祉部局の連携も進めるべきで、その他大学の人的ストックとの連携も具体化できればと考える。

【小川教育長】

- 私も市長も、和泉市の子どもたちが義務教育を終えた段階で、自信をもって様々な分野で活躍し、自己実現を果たし、和泉市で育ってよかったと思ってほしいと願っている。
- 教育大綱も、学力と同時にたくましく生きるための健康や体力、人を思いやる心、個性や創造性、困難があっても挑戦する力、自分だけではなく周囲と協力して困難を乗り越えていく力、これらの「知・徳・体」をバランスよく習得してほしいということを前提に策定されている。
- これまでの学力といえば、知識の習得や与えられた課題をこなすことに重点が置かれていたが、これからの教育に求められているものは、未知のものに対する対処・判断という、大きな意味での教育である。そして、それを育むのが義務教育であり、教育委員会であり、学校現場だと認識している。子どもたちがよりよく生きていくための真の学力向上に向けてより一層取組を進めていきたい。その結果として、学力テストの点数向上につながると考える。折しも、明日開催される教職員全体の研修においても、市長、教育委員の皆さん、そして私の思いを直接しっかりと伝えて、教職員を励ましていきたいと思っている。
- この懇話会を受けて、今後はいかに具体的にスピード感をもってやっていくかが大事だ。現場での徹底・継続も改善しながらやっていきたい。

【辻市長】

- 総合教育会議で整理した「いずみ希望塾」が開設から6年目、1人1台のPC活用は2年目を迎えている。近年では、普通教室・中学校体育館への空調設置、施設一体型義務教育学校の整備といった施設環境整備やALT、スクールソーシャルワーカーの増員といった施策に加え、「教員の働き方改革」に係る事業などにも積極的に予算化させていただいている。
- 「学力テスト全教科で大阪府の平均以上」という内容を4期目の公約に掲げ、今年度、その施策を検討いた

だいており、非常に熱心に、かつ的確に分析いただいております感謝しかない。

○私が市長になった当初から、日本人として誇りを持てるような教育を行っていきたい、徳育条例を作りたいと考えていた。条例を制定すれば和泉市がよくなるわけではなく、やはり地道な環境整備が必要で、いずみあいさつ運動などを実施し、令和3年に、ようやく「和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例」を制定することができたという経過がある。この条例では学校教育だけではなく、社会総がかりで子どもたちを育むのが目標で、その目的のひとつが学力向上である。テストの点数向上を目標としていることについては賛否両論があると思うが、社会総がかりで子どもたちを育てていくというような前提があり、その目標のひとつに学力向上があるとうご理解いただきたい。

○次回の懇話会で内容の最終整理が行われ、それをもとに教育委員会で具体的な施策の決定がなされるところだが、予算を伴うものについては、前向きに財政部局とも協議してまいりたい。

5. 閉会

【事務局】

○以上をもって、令和4年度第1回和泉市総合教育会議を終了する。

< 終 了 >